



特定非営利活動法人
自然文化誌研究会 会報誌

144 号

2022 年 1 月 20 日発行号

2022 年本年もどうぞよろしく願いいたします。

自然文化誌研究会代表理事 中込卓男

皆様お元気でしょうか。正月三が日、朝、乾杯で始まる我が家の伝統を、お酒のおいしさを充分味わいながら、伝承していかなければと、伝統智の大切さを改めて思うこの頃です。

新型コロナウィルスも、まだまだ収束しそうにありませんが、去年はそんな中でも夏の「こすげ冒険学校」(8 月)と冬の「まぶゆのキャンプ」(12 月)を開催できました。5 月にスタッフが小菅村のいつものプライベートキャンプ場で感染対策の実験キャンプを行い、一人用のテントを参加者全員分購入する等、感染状況を見て活動を 2 回無事に行うことができました。いつもは、川遊びやたき火等に関する安全面に気をつけていますが、これに加え感染症に対しても気をつけることが加わったのだと認識しています。新しいキャンプの形を今年もいろいろ模索しパイロットワークの一つにしていきたいと思っています。会員の皆様の考えを踏まえて話し合い実践していきたいと思っています。

またその他の INCH の活動、「タイ環境学習キャンプ」、「のびと(野人)講座」(野草の天ぷらとお茶摘み、源流での登山道整備、星空観察会、雑穀栽培講習会等)、「ELF 環境学習指導者養成講座」「環境学習セミナー」等いろいろ実施してきましたが、今年はどうするのか、これからどうしていくのかを議論していかなければと思っています。昨年 6 月から木俣美樹男氏による環境学習会「環境学習原論」が 2 月に 1 回のペースで始まりまして。私も ZOOM で参加していますが(INCH も協働主催なので是非皆さんも覗いてみてください)、12 月の藤村コノエさん(NPO 環境文明 21 代表)の話題提供の会で、「地域活動で環境学習をやるのが目的となってしまう NGO、NPO が多い」という話が妙に心に残っています。このことが良い、悪いということではなく INCH としてどのようにしていっていいのだろうかと言うことにつながると思います。

自然文化誌研究会ができて今年で 48 年、NPO になって 19 年、そろそろ 20 周年になります。改めて INCH の活動についてゆっくり時間をかけて話し合っていきませんか。

(※ INCH=自然文化誌研究会です)

『第 18 回 NPO 法人 自然文化誌研究会 通常総会』のご案内

2004 年に東京都の認証を受けてから、第 18 回目の総会を行います。昨年に引き続き、オンラインでの開催としました。正会員の皆様はぜひご出席ください。また出欠を同封のハガキでお知らせ下さい。このハガキは欠席の場合は委任状となっております。ご意見などもお気軽にお寄せください。なお、正会員以外の会員の皆様もオブザーバー参加が可能です。

日時：2022 年 2 月 19 日(土) 11:00 開始～12:30 終了予定

場所：ZOOM でのオンライン会議

議題：①2021 年活動報告 ②2021 年収支報告 ③2022 年活動計画

④2022 年収支予算 ⑤その他

*出席される方にはオンライン会議の URL をお知らせしますので、

前日までに事務局までご連絡ください。

今年の予定については総会後の 3 月に発行する会報ナマステ 145 号でご案内します！！

一番寒くて、一番アツかったまふゆのキャンプ

2021 冒険学校まふゆのキャンプ村長・自然文化誌研究会運営委員 賛田隼人（だにえる）

記憶が正しければ、私の INCH キャンプの参加は大学3年生、2014年のまふゆのキャンプからだ。思い思いのことに打ち込む子どもたちやそれを見守ったり手伝ったり、時には何もしないで自分たちも自由に楽しむ大人たち、そんなキャンプ場の雰囲気や時間の流れに魅入られて7年が経ち、今回まふゆのキャンプで村長を任されることになった。

今の自分の役割とは、キャンプに参加する意義とは、なんてことを考えるきっかけになったので、自分なりの意見をまとめてみようと思う。キャンプは様々な立場の人が集まる場所である。小学生・中学生の参加者と高校生・大学生の学生スタッフ、社会人として参加する人たちも年齢も住んでいるところも仕事もバラバラだ。そんな人たちが寝食をともにして、面白いことを探し、楽しむ空間なのだ。当然、考え方も価値観も違う。出来ることも、やりたいことも違う。それでも一緒に過ごす中で、交流があり、衝突もありうる。こうした関わりを通して、新たな視点や価値観が生まれることが大事なのだと思う。ただ、まふゆのキャンプやむらまつりキャンプの3日間ではやや短い。人と人をつなぐことや、関係を崩し、広げるために動くことが今の自分には必要なのではと思っている。



「寒さ」がまふゆのキャンプの魅力であり、課題でもあることを改めて感じた3日間だった。溶けない氷のペンダント、夏に見たときよりも輝いていた星たち、コップに注ぐと凍っていく飲み物など普段の生活では出会えないことがたくさんあった。タライに入れた水もどんどん厚く凍っていき、3日目には上に立てるほどだった（2日目は割れて、村長は足を濡らした）。その一方で、冒険学校同様に一人1テントで過ごすので寝るときはとても寒かった。子どもたちは湯たんぽを入れたり、カイロを貼ったりしてようやく眠ることができたようだ。1日目の夜は寝袋を掛け布団のようにしていたら寒かったが、2日目の夜は寝袋の中に寝袋を入れて寝たらずっと温かったと話す子もいた。小菅の寒さは貴重な体験をもたらしてくれるが、体力や健康の面ではやはり厳しい。そんな事情もあり、キャンプ場でまったり過ごすという雰囲気があったので、囲炉裏で団欒をしたり、工作や焚き火を楽しんだりする時間が多かったが、最終日に白糸の滝や雄滝のような小菅の自然を見に行く時間が作れたら良かったなという思いも残る。今回は大学生のスタッフが多く参加してくれたことや、キャンプの参加経験がある子どもたちで帰り支度も素早く済んだために、そんな欲が出たのかもしれない。

このコロナ禍の中でも、まふゆのキャンプを開催し、無事に終えることができたことに胸をなで下ろしている。昨年は開催することすら出来なかった。ただ何もせずにはいられずに研修キャンプという形を取って、佐伯さんと宮坂くんと私の3人でキャンプ場で過ごしたことを思い出す。夏の冒険学校に続き、まふゆのキャンプもスタッフや参加者の熱意と創意工夫で開催できたのだという喜びを、この振り返りを書きながら噛みしめている。



（夏のこすげ冒険学校に引き続き、一人1テントで個別就寝場所の確保を徹底しました（濃厚接触者を出さない）。）

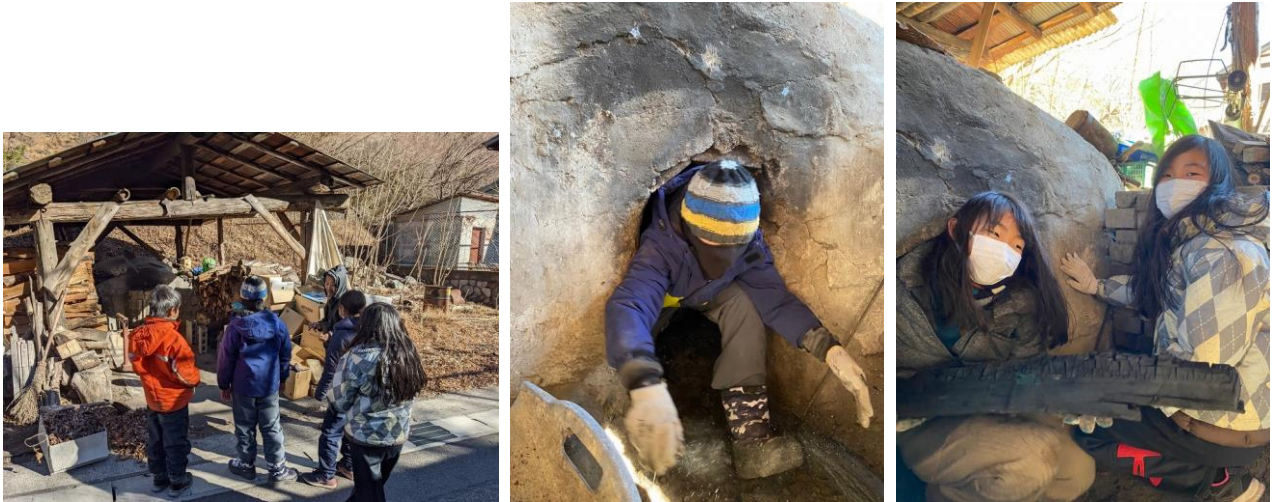
<活動の様子とスタッフからの声>

森住芽衣さん（東京学芸大学2回生）

お疲れさまでした！ 昼間に水を入れて置いておいたら凍る、冷蔵庫の方が暖かいとかキャンプ前は信じられませんでしたかほんとでした！！

野鳥観察のときに雑草が凍っていたり、木になってる山梨が凍ってたのとか(おいしかった!)、ご飯がすぐ冷たくなっちゃうのとか、私の日常では考えられないような状況にたくさん出会ったことがまず楽しかったし、山の木の種類が違う理由とか信号機がある理由などの小菅村についてのお話が聞けたのも楽しかったです！！

美味しいものをたくさん食べられたことも幸せでした。



(木下善晴さんの炭焼き窯から炭を出す作業、長さを揃えて梱詰めし、軽量する作業を手伝いました。普段からキャンプ場で使用している炭も木下善晴さんがこの窯で作った炭を使用しています。)

小平温太さん（東京学芸大学2回生）

まずは寒いなか、皆さんありがとうございました。私も地元で寒さにはある程度鍛えられていると自負していたのですが、いざキャンプ場に足を踏み入れてみると、ブルブルわなわなで大変でした。次回は運動靴から卒業したいと思います。

さて、今回もまなつのキャンプに欠いで、連続参加させていただきました。さまざまな「たいかん」の中で得られた、非日常の中の体験はどれも宝物です。

ビザ窯構想が実現したり、じっくり星や野鳥を観察できたり、多くの驚きや発見がありました。夏と比べて冬は出来ることが限られるぶん、のんびり囲炉裏を囲んで語らう時間の価値がグンと上がったように思いました。子どもの数も少なかったので、一人ひとりに話しかけられる時間も増えて、より仲良くなれて嬉しかったです。

他のみなさんも書かれていますが、毎回の食事は本当に美味しかったです！朝食を汁系にしてくれていたみどりさん達の工夫は非常にありがたかったです。温まった！！



(加藤原久さんに野鳥観察をご案内いただきました。野鳥だけでなく植物や生活についても教えていただきました。)

佐伯順弘さん（自然文化誌研究会運営委員）

この寒い過酷なキャンプに多くの学生スタッフが参加してくれたことがうれしい。決して、こちらの都合でありがたいだけでなく、学生の皆さんがこのコロナ禍で活動が制限され課題やオンライン授業が詰まっている中でこの体験を選んでくれて「体感」してくれたことがうれしい。ピザ窯も軽い気持ちで「できますよ。」と投げたら、思いの外頑張ってくれたスタッフのおかげで実現までこぎつけました。これでまた一つプログラムが増えました。ピザ窯づくりから更にそれで作ることでできるものへと多岐に広がり、活動に幅ができるのはうれしいことです。



（ハンドメイドのピザ窯、使用した耐火レンガは100個。今回組み立てた物は解体してありますので、次回はまた組むところから（場所は自由に）使用することができます。） ↓ 星空観察 ↓ 川に入るボビー ↓ 五右衛門風呂



大瀧ほの香さん（慶応義塾大学 3 回生）

5 日間ありがとうございました！

薪割りや囲炉裏を囲んでのご飯、全てが凍ってしまう世界など、新鮮なことだらけでとても楽しかったです！キャンプ場で食べるご飯やお菓子も最高に美味しかったです♪ご馳走様でした！

自然の中で子どもたちと関われる時間が幸せでした。温かく迎入れて、沢山のことを教えてくださったスタッフの皆さん、本当にありがとうございました！



立木由伸さん（東京学芸大学 2 回生）

めっちゃ楽しかったです！！ほんとに参加してよかった。個人的には五右衛門風呂が最高でしたねぇ。あと食事がとても美味しかったです！！作ってくださった方々、ありがとうございました。。山の食事がいつもと違いさらに美味しく感じた気がします。

焚き火を囲んでのお話も新鮮でまったりで良かったです！！星も綺麗だった！！

やっぱめっちゃくちゃ寒かったですね。僕は身長高い方で、寝袋の上まで頭が入らず、、（笑）

次回もぜひ楽しみにしてます！！



沖縄や北海道より気分的に近い島・台湾（その1） 佐伯 順弘（岐阜県）

夏のアイラ島行を終え、通常ならば次の旅行は夏なのだが、この時期、調子に乗っていたようで、冬も海外に出かけることにした。職場の上司が台湾のことを聞いてきたので、話すと冬休みに台湾に行くとのこと。冬休みに台湾か。悪くない。上司が行くなら下っ端が行ったところで文句を言われることもないだろうと、瞬時に計画を立て、航空券を確保した。計画を立てるのに0.005秒、航空券検索から確保まで10分である。一般レベルのコンピュータシステムの反応速度ではこんなところだろうが、ご存知の通り、私の中に標準装備されている電腦は量子コンピュータレベルである。考えるだけなら超高速なのだ。いくら処理速度が速くてもそれに必要なデータが用意されていなければ、処理完了まで時間がかかるだろうと思われるかもしれないが、常に旅行、小菅キャンプ、登山、ウィスキー、ウィスキー以外の酒、燻製、燻製以外のつまみ、アウトドア関連の起業、学校ICT関連の起業、海水淡水化及び砂漠緑化関連の起業、外宇宙への移住のことくらいしか考えていないので、膨大なデータ常に更新されているのである。

というわけで、若干文章にすると長いが、瞬時に冬の台湾・高雄行きが立案され、秋の運動会が終わるころには始動した。

Travel planning

DAY1 5th JAN NGO→TPE
DAY2 6th JAN TPE→KHH
DAY3 7th JAN KHH
DAY4 8th JAN KHH
DAY5 9th JAN KHH→TPE→NGO

DAY1 (5JAN2017) 名古屋→台北

0800 起床、朝食。ぐだぐだしつつ、正月ののんびり生活を始める。当然、旅行の準備は何もしていない。しかし、数年後この体制がとんでもない悲劇を引き起こすことになる。偶然、旅行前日にパスポートを確認してみると、1カ月前に切れているではないか。結局その時の旅行はキャンセル。LCCだったので金銭的損害は少なかったものの航空券代は捨てることになった。昔は航空券の予約の時にパスポートナンバー共に有効期限も伝えなければならなかったが、LCCのネット予約などは伝える必要がないので有効期限切れに気付かないことがある。おそらくこれはそういうことを狙っているのではないかと疑っているのだが、まあ、それは個人の責任なので十分回避できる損害だ。冷静に考えれば、それは単に個人が間抜けなのであり、全責任は自分自身にある。パスポートの有効期限は常に意識して生きようようにしたい。

1000 準備開始。実は元日より風邪気味であり、昨日の

日直勤務で悪化するも旅行はできる程度になっている。天候はやや雲が多めだが、晴。昼間は暖かい。活動資金の確認をする。

64000JPY+5651NTD

(5651NTDは15000JPY相当である。)

4泊5日、航空券+宿泊代はCC払いなので、こんなにも使わないし、カードがあるので多めだが、財布の中身をすべて旅行用財布に移動する。旅行装備は常に揃えてあり、即応体制は整っている（パスポート有効期限は確認していなかったが）、出発準備完了までは速い。忘れ物など、パスポート、航空券（最近は現物さえない）、現金が少しとCCの3点があれば、特に問題はない。今回もコンパクトにいつもの機内持ち込み手荷物用バックパックに収納する。液体、刃物など危険物は入れられないが、最初から入れる予定はないし、必要であれば必要なものは他のもので代用する訓練は積んでいるので、どうということはない。使う可能性が極めて小さい技術ではあるが、知識・技術の習得はもっともコンパクトで安く常に最新にできる装備の1つである。また、敵に奪われることもないので安全である。

1150 日本ライン今渡駅着。名古屋鉄道の駅で中部国際空港セントレアへ直通の電車が出ている。

が、しかし！1147 既に中部国際空港行きの列車は出発していた。もちろん、そういうことも想定して、十分な時間的余裕をもってきたのだが、3秒ほど落ち込むほどの悔しさである。しかも、直通なら、終着点が中部国際空港なので、最悪寝過ごしても誰かが起こしてくれるだろう。しかし、その列車以外は乗継が必要なので、寝る暇もない。

ま、あそんでいるのだから、どうでもいいのだが。



1203 日本ライン今渡発。中部国際空港まで1500円。犬山駅で乗り換え1224発。名古屋で乗り換え1301発。中部国際空港駅1336着。

1344 チェックイン完了。空港駅に着いて8分後である。まったく混んでいない。フライトの3時間前である。3時間も何をするんだという考えもあるだろうが、空港が好きなので特に問題はない。プールや映画スペースがある空港

なら、半日前に到着しても問題ない。うろうろしたり、食べたりすればいい。もちろん、出国審査が混んでいそうだったら早めに通過するのもいい。エグザイルかなんかが、ライブをやるらしく、ステージが作られていた。

1400 昼食。その後、風邪薬を買う。

1420 セントレアプレミアムラウンジへ。カード会社の特典は使うべし。ビールを飲んで寛ぐ。置いてあるビール「ハートランド」をいただきつつ、電子機器をチャージし、旅のメモを書く。重要な時間である。

1500 トイレでヒートテックを脱ぐ。空港内は寒くないし、台湾は1月でも基本的にそれほど寒くない。

1510 出国手続きへ。⇒⇒1518 抜けた。早すぎ。

1605 ボーディング時刻。想定内だが、機材到着遅れのためボーディング時刻が遅れるとのこと。大したことではない。台湾用財布を準備。

出発～搭乗待ちの出費

(交通) 日本ライン～中部国際 ¥1500

(交通) 名古屋から特急料金 ¥360

(食費) 昼食 ¥950

(医療) 風邪薬 ¥1490

1630 ボーディングの列に並ぶ。

1700 いつの間にか Take off。

1745 機内食。カレー牛肉飯、フルーツ、パイナップルケーキ (パイナップルケーキ、台湾名産)



1930 後 30 分で到着とのアナウンス。約 3 時間のフライト。快適であった。

★TPE 時間に変更⇒1 時間戻す。以後台湾時間

1830 後 30 分で到着とのアナウンス。

1900 台湾・桃園国際空港到着



1915 入境検査 (入国審査) の列に並ぶ。

1927 あっさり通過。正月の混雑はない。

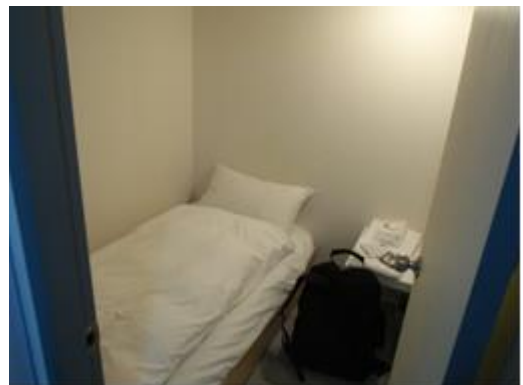
両替 40000JPY→10670NTD

1935 台北の中心部に行くためにはどのバスに乗るべきか探索する。土地勘は既についているのでこれもすぐ見つかる。1939 バスチケット入手。125NTD

1945 桃園国際空港発。極めて円滑な流れである。2030 台北車站 (台北鉄道駅) に到着。台北駅はシリウスのような青白くライトアップされ、美しい。台北駅を基準に方位をリセットし、予約しておいたホテルを目指す。海外旅行を始めた頃はホテルの予約などというぬるいことはせず、その時の感覚でホテルを選び、泊まったものだが、最近は夜到着だけでなく、ネットでお気楽に確保するようになった。フライトのトラブルや予定変更したいときのフットワークには欠けるが楽しい。敢えて困難に飛び込むことはしないくらいには大人になってしまったということだ。

2050 品格子旅店到着。2055 チェックイン完了。

本当にベッド、サイドテーブル、ディスプレイ、電話があるだけの部屋。窓さえない。しかし、キャンペーン価格であるものの¥2000! それに寝るだけなら何の問題もない。



2110 周辺の探索へ出かける。

2120 それほど空腹だったわけではないのだが、食べたくなって食べてしまったのが、ルウロウファン 25 元 (= NTD) である。店によって微妙に違うがほぼ同じものが出てくる。大と小が選べるのがいい。今回は小を選んでみた。とにかく食べたいものに遭遇する可能性が高い台湾では、とりあえず「小」にしておくことが肝要である。それで、食べたいものに会わなかった場合は、それはそれで無駄なカロリーを摂らずに済んだと安心すればよいのである。



台北車站を基点にして、MRT (地下鉄) 沿いに地上を歩く。繁華街などが並んでいるが、バーなどに入るほど台北

には慣れていない。それに明日は移動日である。危険を冒すわけにはいかない。それが冒険探検部のOBであったとしてもだ。台北の1月の夜は暖かいわけではないが歩いてみると、寒さは感じない。水分補給の必要性を感じたので、全家（ファミマ）で水を買ひ、補給する。水分の適切な補給、食べ過ぎないこと、この辺りが探索者として忘れてはならない項目に挙げられるのは間違いのないところだ。



ひたすら探索を続け、疲れたので近くにあった地下鉄駅から台北車站まで戻る。

台湾の地下鉄は台北、高雄ともに発達しており、わかりやすい路線図と運賃が表示されているので乗りやすい。

台北の地下鉄で使われているトークン（コイン型のICチケットのようなもの）は以前住んでいた高雄とは違う種類のトークンだが、基本的には同じ。Suicaのようなカードも存在し、長く滞在するなら持っておいた方が便利だと思う。今回はすぐに高雄に移動するのでカードを購入したりはしない。とはいうものの高雄の交通カードとロンドンの交通カードはずっと持っているし、チャージもあるのだから行くときには現地の人のような顔で使う。



2200 ころなのでまだ多くの人々が活動中である。帰宅ラッシュなのであろうか、比較的乗客は多かった。基本的に地下鉄はそれほど混雑していない。

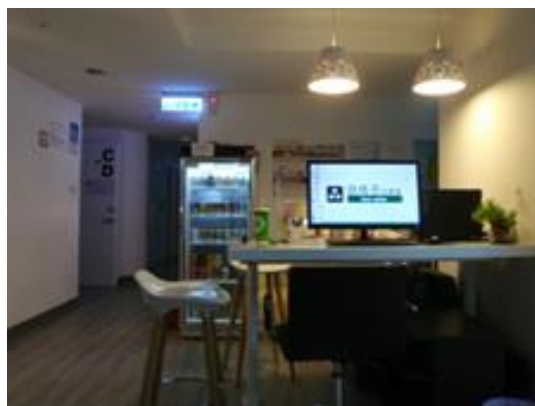


喫煙はもちろんのこと、飲食も禁じられており、守らない人はいない。ちなみに違反者には罰金が科される。その

辺りのマナーは日本と同様にしっかりしているが、日本が完全に負けていることが1つある。それは、老人の他、妊婦など座席を必要としている方への座席の譲り方がとてつもなく速いのである。私も比較的譲る方だと自覚しているのだが、台湾の若者に勝ったことは一度もない。とにかく、さっと立つ。ぼんやり乗っていないのであろうか。こちらは基本ぼんやり、時々人間観察、時々車外の広告を読んで動体視力の確認などを行っているため、どうしても気づくのが遅れる。そして、立とうと思った時には既に台湾の若者が立ち上がっているのである。そして、さも当然であるかのような自然な雰囲気なのである。日本ではどうだろうか。この辺りは日本人として恥ずかしく感じる部分があることも確かである。

2240 そんなことを考えている内に、目的の駅に到着。台北車站の地下鉄駅構内には出口の表示が明確に示されているので出口番号さえ覚えていれば、迷うことなく地上に出られるのは日本と変わらないが、広くて歩き疲れるのも同様である。

2325 ホテル帰着。寝るだけの場所と割り切ってはいるが、PCが使えたり、食事をするスペースがあったりと閉塞感はない。フロントのスタッフも気さくでよい対応である。



それでも、出発時から風邪気味であったにも関わらず積極的に探索活動に従事したため、若干疲れた。シャワー後、ほぼ完治に近いと判断できたが、風邪薬を飲んでおく。旅日記を書き、会計処理をして、とりあえず寝る。

台湾2日目は、午前中に台北の探索。午後からは新幹線で高雄へ移動。台湾新幹線（高速鉄道：高鐵）の便数は多い上、座れなかったことはないのも、大変便利で気楽な移動手段だ。

（本日の会計）

所持金 5651 元

- ・バス 125 元
- ・ルウロウ飯 25 元
- ・水 18 元+10 元
- ・MRT 20 元

1 日目合計 198 元

（つづく）

『藤農便り』 第 26 号

宮本茶園

宮本透

明けましておめでとうございます 2022 年もよろしく願いいたします

昨年 9 月から児童クラブでのアルバイト日数を減らし、週 1 日の勤務にしています。相模原市役所の意向調査には 2022 年度勤務継続希望を出さず、3 月末で新規就農以来 5 年間続けたアルバイトに終止符を打つことにしました。4 月からは野良仕事に専念、今年の目標は「安定した農業経営を目指し、相模原市の認定農業者になれるよう精進続ける」です。6 年目に入った佐野川での茶・雑穀・花卉栽培は老後の生きがいになっています。学生時代は引きこもって留年、賃金労働者時代は処分を受け最後は解雇と挫折続きの人生でしたが、農民になってからは前向きな気持ちで野良仕事に励んでいます。高校生の頃漢文で習った「人間万事塞翁が馬」、多くの有名人が座右の銘にしているそうですが、私も 64 歳の誕生日を迎えるに至りこのことわざの意味がわかってきました。

・新商品「佐野川焙茶」発売

前号でお伝えしたほうじ茶製品は予定通り 10 月 14 日に発売しました。当日は神奈川新聞が取材してくださり、記者に大河原部長の茶園を案内しながら藤野茶業部の取り組みをお話ししました。半世紀以上続く足柄茶北端産地の歴史、2018 年 10 月相模原ブランド「佐野川茶」誕生までの経緯、茶園管理協同作業・耕作放棄茶園再生・後継者育成等の活動を約 2 時間ていねいに取材いただきました。大河原部長・中村副部長と 3 人で佐野川茶製品を持つ写真を撮っていただいた後、茶園に 5 製品を並べスマホで記念撮影しました。10 月 20 日付紙面にはにこやかに佐野川茶製品を手にする写真入記事が掲載され、さっそく LINE でつながる教え子や知人・友人に情報発信しました。たくさん励ましの返信をいただきましたが、「宮本先生も優しいお顔で！写って！」というメッセージには目を吊り上げ怒鳴りまくっていた熱血担任時代を久し振りに思い出し、苦笑いしてしました。



神奈川新聞報道の反響は大きく、県内各地から佐野川を訪れるお客様に茶園をご案内する機会が多くなりました。販売も好調で観光協会のふじのね・サガミックスや J A 各店舗への納品数が増え、大口の注文もいただいています。先日は本村相模原市長が Facebook に「相模原市特産 佐野川茶一番棒ほうじ茶 寒い夜は、我が市特産の『佐野川茶一番棒ほうじ茶』をいただくと、ホッとしますね。美味しい佐野川茶を応援していただければ嬉しいです」と投稿してくださいました。市長をはじめ皆様の応援、藤野茶業部農家の励みになっています！



・秋の茶仕事

宮本茶園の肥料はこれまで農協で購入していましたが、昨年夏肥から茶来末佐々木社長から紹介いただいた静岡県に本社がある豊田肥料の茶樹専用肥料を使っています。豊田肥料は営業担当者が佐野川を訪れて藤野茶業部農家の各茶園を視察、土壌を持ち帰って分析し年間の施肥計画を立てて、茶園に適した肥料の種類と施肥量を示してくれます。藤野茶業部では季節毎に行う施肥に 1 反当り 10~15kg の窒素を施します。宮本茶園は茶配合肥料と有機肥料を併用しているので、窒素含有率が約 2%の鶏糞・豚糞は 1 反に 20~30 袋施肥します。1 袋約 400g 窒素が含まれる 15kg の有機肥料を数十袋担いで急斜面の茶園で行う施肥作業は、覚悟がなければ出来ない重労働です。土壌分析結果を

診ると宮本茶園の茶樹は有機肥料の窒素を十分吸収していないようで、施肥した窒素が茶葉の品質に反映されていない事がわかりました。夏肥に続き9月に施した秋肥の効果は顕著で、10月下旬芽の生育が止まり秋整枝をする時期になってもこれまで見たこともないような青々として勢いのある葉が出ています。豊田肥料のアミノ酸含有量が高い肥料は茶葉の旨味と収量向上に効果があるそうで、今年の収穫が楽しみです。

藤野茶業部ヘルパー養成研修会は9月秋肥・10月秋整枝・11月有機資材敷き込みを実施しました。秋整枝は次年度の収穫に大きく影響するので慎重な機械操作技術が必要です。数mm深く刈るだけで摘採日が遅くなり荒茶価格が変わってしまうので、夏整枝後に伸びた枝を観察し整枝面が一定になるよう機械を持つ2人が息を合わせて作業しなければなりません。参加者は真剣に部員の指導を受けながら、機械操作を学びました。



10月は県農業技術センターの茶園巡回指導があり、茶園巡回指導後の茶業部会で第54回神奈川県茶園共進会出品茶園が伝えられました。2018年藤野茶業部活動で再生させた上岩の元荒廃茶園が選ばれ、私にとっては正に青天の霹靂でした。15号で報告した「再生に取り掛かったのだからやり続けたほうがいい。一所懸命やっていけば、きっと誰かが応援してくれる」と営農指導で説得されて借りる事になった茶園です。あれから3回の夏が過ぎ、蔓草が生えなくなった事を評価されたと同向きに受け止め、準備に入りました。11月のヘルパー養成研修会では部員・参加者に協力していただき、茅場のススキを刈り取って畝間に敷き込みました。藤野茶業部仲間に支えられて共進会出品した茶園、審査結果は次号でご報告します。



・ちーむゴエモンの活動（醤油手入れⅡ）

昨年2月に仕込んだゴエモン佐野川チームの醤油醪は毎月一回メンバーが集まり手入れをしています。8月の手入れまでは雑菌の侵入もなく、順調に発酵が進んでいました。昨夏は8月中旬天候不順で雨降りの日が続き、高温多湿の影響で産膜酵母が発生してしまいました。高橋師匠に教えていただいた対処方法は ①醪の表面が白くなったら速やかに手入れして産膜酵母を混ぜ込む ②高温の日は朝樽の蓋を開け夕方閉める です。秋が深まるまで産膜酵母の発生は続き、野良仕事に出かける前に必ず樽を開けて醪の状態を観察・対処する日々が続きました。発酵の世界は奥が深く、たった一度の不注意でこれまでの努力が水泡に帰してしまう事も度々です。高温季節の醪管理、とても勉強になりました！



12月に行った19回目の手入れ、樽を開けると芳醇な香りが漂い醪の表面は褐色に輝いています。2020年佐野川チーム最初の醤油仕込みは、原料の大豆が猪の食害で収穫できず全てを上岩雑穀畑産で賄う事ができませんでした。この醪は小麦・大豆を栽培・収穫して原料を用意し、ヤギ苑に泊まり込んで醤油麹を仕込み、産膜酵母の発生に対処して手塩にかけて育てた物です。毎月の手入れは平塚養護学校OB・OGのメンバーが集い、同窓会のような楽しい時間を過ごす事ができました。正月が明けたらいいよ醤油搾りです！



・雑穀街道普及会 2021 年秋・冬の活動

これまで上岩雑穀畑では麦類を収穫した後は、次年度に大豆を播種するまで作付けせず雑草に覆われないよう時々耕耘機で耕すだけでした。キビ・アワが出穂して収穫を迎える季節、雑草がはびこる裸地は殺風景なので昨夏は景観用コスモスを植え付けました。8 月上旬に播種したのですが生育が早く、秋分の日には満開になりました。柔らかな初秋の日差しの下、鞘が膨らみ始めた津久井在来大豆と穂を垂れた雑穀とそよ風にたなびくコスモスの花はとても絵になります。



播種が遅くなった雑穀と津久井在来大豆ですが、見本園の陸稲以外は収穫する事ができました。但し収量は前年に比べて少なく、キビ・アワはそれぞれ 10 kg を越えず JA クレインの加工場で精白する事ができません。大豆は今年の醤油仕込み原料と植え付け用種子を確保すると僅かに残るだけで、販売せずに娘家族と昨秋所帯を持った息子に届けます。キビ・アワは西原の中川さんに精白をお願いし、流通できる製品にしたいと思います。



10 月 18 日久し振りに木俣師が佐野川を訪れ、上岩の雑穀栽培農家の聞き取り調査をしました。上岩は雑穀を種継している篤農家が健在で、雑穀街道の農耕文化が守られている地域です。アワとハトムギを栽培している農家は西原

の降矢さんと親交があり、木俣師と思い出話を語り合っていました。キビと陸稲を栽培している農家は 90 歳を越えてもかくしゃくとして毎日野良仕事を続け、脱穀して乾燥させている収穫物を見せてくださいました。ランチを予約したアミーユの橋本さんから「あんたたちいつ来るの!」と電話があるまで話が尽きない調査でした。

アミーユではランチをいただきながら、それぞれがかかわる雑穀街道普及会・ちーむゴエモン・相模湖ダム建設殉職者合同追悼会の取り組みについて情報交換し、雑穀街道の FAO 世界農業遺産登録申請について話し合いました。木俣師が相模原市・上野原市首長と面会するに当たり、私が相模原市長秘書に連絡し橋本さんが上野原市長に連絡して日程調整する事になりました。

11 月 16 日上岩へ相模原市長秘書をお呼びし、雑穀畑視察後に木俣師が雑穀街道の FAO 世界農業遺産登録申請の意義を説明しました。藤野では 2020 年度から相模原市の地域活性化事業交付金を活用して世界農業遺産登録申請準備をする計画がありましたが実現しませんでした。この間の経緯はかかわる人の考え方が大きく違うのでコメントを控えますが、雑穀街道普及会が現在取り組んでいる世界農業遺産登録申請準備を秘書にお伝えしました。木俣師は秘書と相模原市長面会に向けて日程調整をしていますので、メルマガ情報をお待ちください。

12 月 27 日上野原市役所で村上市長と面会しました。市担当者・橋本さん・西原の富澤農業委員が同席し、木俣師が資料を使いながら雑穀街道の取り組みを説明しました。市長の幼少時代は雑穀在培が身近だった事や西原・柵原の伝統的な雑穀栽培等が話題になり、世界農業遺産登録申請準備について前向きな内容の打ち合わせでした。今後の連絡調整は木俣師と市担当者が行う事になりました。上野原市はキヌア栽培を奨励し調整作業を行う施設・設備が充実している雑穀街道の重要拠点、交流を深めていきたいと思っています。

※佐野川での雑穀街道普及会活動に興味のある方は宮本携帯（090-2205-8476）へご連絡ください。上岩雑穀畑では雑穀栽培講習会開催の準備を進めています。



植物と人々の博物館 Plants and People Museum Vol.25

昨年2月に Google Map 上で「植物と人々の博物館」の場所を移転後へ修正しました。その閲覧件数が 20,000 件となりましたようです。最新の活動については、HP やメルマガで随時配信しています。

昨年からハイフレックス方式（現地・ZOOM 併用）での「自給農耕ゼミ（小金井）」と「環境楽習会」の活動を始め、新

しい人と人の繋がりや学びの場となってきています。次回
の環境楽習会（第5回）は2月27日（日）開催を予定
していますので、是非ご参加ください。

(<http://www.ppmusee.org/>)。

丹波山村～小菅村～上野原市（橿原）～相模原市（緑区）
に連なる生物文化の継承を目的に、雑穀栽培をキーワード
とした人と文化の広域連携の形を議論しています。「雑穀
街道普及会」として活動していますので、是非ご参加くだ
さい

(<http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>)。

○ 事務局の麗しき日々

- ・佐伯さんはキャンプ終了後、大月にて青樹をピックアップしたもよう。
- ・だにえるが20代で村長になり本会の村長若年記録を更新したもよう。
- ・のんちゃんは旦那とダイアリーをイクスチェンジしているもよう。
- ・チョ小林くんは脱毛にハマっているもよう。

- ・成人式を迎えたのは、熊木日向くんや小林大地くん世代のもよう。
- ・ホビーは年末の時点で卒論を一字も書いていない事実が発覚したもよう。
- ・茨城の佐々木さんが1/4～5にベンチづくりに来てくれたもよう。
（なお、ベンチにかかった材料と手間はすべて寄付していただきました）



○ 自然文化誌研究会 一緒に活動しませんか？

本会の運営は会員の皆様のご協力と、会費で成り立っています。年会費は、1～12 が該当期間となります。

ぜひとも会員の輪を広げていき、納入をお願い致します。また、基金
や寄付も募っております。

正 会 員：10,000 円 一般会員：5,000 円

学生会員：3,000 円 賛助会員(個人・団体)：10,000 円

家族会員：6,000 円 準特別維持会員：50,000 円

特別維持会員：100,000 円

植物と人々の博物館友の会会員：3,000 円

雑穀街道特別会員（小菅特別から変更）：1 口 1,000 円から

- ・成合基金（冒険栄検基金）：「成合基金」とご記載してください。
- ・寄付：「寄付」とご記載してください。

①郵便振替口座：00100-2-665768

口座名：特定非営利活動法人自然文化誌研究会

②ゆうちょ銀行：10040-94794501

口座名：特定非営利活動法人自然文化誌研究会



ナマステ 144 号

特定非営利活動法人 自然文化誌研究会 会報誌
＜発行日＞2022 年 1 月 20 日

＜編 集＞自然文化誌研究会 事務局

＜発 行＞ 特定非営利活動法人

自然文化誌研究会

The Institute of Natural and Cultural History

＜事務局＞〒409-0211 山梨県北都留郡小菅村 3337-2

TEL：0428-87-0165・090-3334-5328（事務局黒澤）

E-mail：npo-inch@wine.plala.or.jp

H P： <http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>